

犬山学



犬山学ネットワークセミナー

「犬山の埋もれた文化遺産群」・「犬山市の埋もれた文化遺産」

「犬山の天然記念物」・「文化的景観」

犬山市民総合大学 敬道館 名古屋経済大学オープンカレッジ



田中天神の森

犬山駅東口から東南300mほどの場所に、犬山街始まりの地「田中天神の森」伝承が残されている

INUYAMA-GAKU | 2022.2 | 8th ISSUE

犬山学 ネットワークセミナー

2021年11月12日に、本学と特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク(ニワ里ねっと)の共催(犬山市、犬山市教育委員会後援)で「犬山学ネットワークセミナー」をオンラインにて開催しました。

会に先立ち、山田犬山市長からお言葉を頂いた後、本学学長より挨拶をしました。

今回のセミナーは、4名の講師から、犬山市の埋もれた文化財を歴史、文化財、自然遺産と多角的に再検討し、今後の文化財の保護や活用、また観光戦略の参考にさせていただく事を目的として開催しました。

初めてのオンラインイベントではありましたが、35名の皆様にご参加いただきました。

犬山の埋もれた文化遺産群 — 考古 —

◆文化遺産を資源化

犬山には多様な文化遺産群、有形無形の文化財や伝承が残り伝えられてきた。そして人々の心の深層に沈澱していった。また眠っている文化遺産も計り知れない。こうした「文化遺産群」を、まずは資源として再評価し街づくりの根幹に位置付ける志向性が、其処彼処で試みられている。地域をまとまりある総体としてとらえ、地勢学的な視点を加味しつつ文化遺産群を繋ぐ試みからは、時空間を超えた郷土の絆としての地域ストーリーが見えてくる。



◆犬山街ストーリー

犬山城下町はいかにして誕生したのか。そして街衆の絆としての「犬山祭」は本来どのような意味を持ち得るのか。その物語は犬山城の東側に存在する白山平の山頂に残された「東之宮古墳」から始まる。そして犬山駅東に残された「田中天神の森」伝承の中に大いなるヒントが隠されている。この場所がどのような地形的特徴を持つのか、そして我々の先祖たちはいかにしてこの地を開き、木之下城から犬山城そして城下町の発展へと続いてきたのか。そこには二度の「街ごと」移転とその歴史が土地に刻まれ、そしてその歴史を紡ぐモノとして犬山祭が継承されていったと考えることができる。

講師プロフィール

ニワ里ねっと理事長・法学部 特任教授
赤塚 次郎

犬山市の埋もれた文化遺産 — 有形文化財 —

2020年現在、愛知県下の国指定の有形文化財は369件、愛知県指定の有形文化財は438件、このうち犬山市所在の国指定の有形文化財(2021年現在)は18件で、国宝が犬山城天守・茶室如庵の2件、重要文化財では大縣神社本殿/祭文殿/東西回廊のほか旧正伝院書院(名古屋鉄道株式会社蔵)・旧西郷従道住宅・旧三重県庁舎などの建造物(博物館明治村蔵)、彫刻は木造薬師如来坐像(薬師寺蔵)、工芸品は短刀 銘左安吉作(犬山城白帝文庫蔵)、歴史資料ではリング精紡機(博物館明治村蔵)である。このほか市内にある愛知県指定が5件、犬山市指定が31件となっている。

先年(2006～2018)発刊された『愛知県史 別編 文化財1～5』で紹介された犬山市所在の有形文化財は、建造物が22件(犬山祭の山車や城下の町並みを含む)、彫刻3件・絵画9件にとどまっている。

犬山市の有形文化財については、犬山城や明治村の建造物が有名であり、文化財の活用を踏まえた観光に大きく寄与しているが、それ以外の文化財に対する認識は大きいとは言えない。1985年に刊行された『犬山市史(別巻)文化財・民俗』に纏められているものの、現在の観点からすれば作品名称や製作時代の判定や認識に不十分なところが目立ち、正確な情報が在住の人のみならず、他地域の人たちにも知られていないことは残念である。これを踏まえ多くの人々に周知してもらうためにも、埋もれてまだ知られていない有形文化財を掘り起こし、早期に悉皆調査を実施し、しかるべき手段で公にされることを望む。

講師プロフィール

経営学部 特別教授
四辻 秀紀

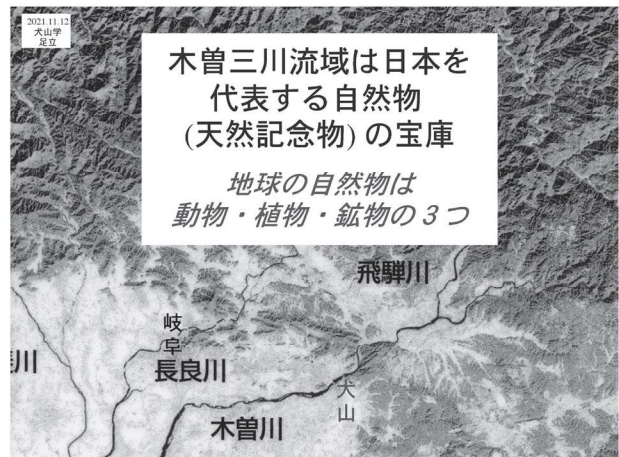
犬山の天然記念物

地球の自然物は動物・植物・鉱物(鉱物の集合体が岩石、岩石の風化したものが土壌)の3つで、それらが密接に関係して生態系を作っている。犬山を含む愛知県北部から岐阜県南部(木曽三川流域南部)は、中部日本を特徴づける自然の宝庫。自然を行政区画で分けることはできないので、「犬山の天然記念物」は「木曽三川流域南部の天然記念物」として大きく捉えた方が自然の理解が深まるだろう。

木曽三川流域南部の天然記念物あるいは天然記念物級のものには、(1)動物ではギフチョウ、オオサンショウウオなど、(2)植物ではヒツパタゴ、マメナシ、淡墨桜など、(3)鉱物(地質)では根尾谷断層崖、甌穴、日本最古の石、菊花石、煙水晶、ジュラ紀放散虫化石などがあり、どれも日本の自然を理解する上で欠かせないものだ。

保存状態がひじょうに良好なジュラ紀の放散虫化石は、犬山・鵜沼の木曽川沿いのマンガンジュールと呼ばれる石から見つかっていて世界的に有名である。こうした貴重な自然遺産を次世代教育や観光資源に活用するには、そ

の地域の自然の成り立ちや自然物の特徴を分かりやすく情報発信できる施設(ビジターセンター)が極めて有効なので、その整備を期待したい。



講師プロフィール

法学部 特任教授
足立 守

文化的景観

2019年4月に改正文化財保護法が施行された。今回の改正では「文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要」とされているが、これは「文化財の保護」から「文化財の利活用」へと文化財保護の方針が大きく転換されたことを意味する。そのために、市町村は未指定の文化財を含めた域内の文化財の総合的な把握を行うことが求められている。まさに、「地域の埋もれた文化遺産」を積極的に活用していこうという趣旨だが、その担い手となる地域の体制や人材が十分ではないといった課題も指摘されている。

犬山学の立場からは、文化財保護法の改正を犬山の事例に即して具体的に考えていくこと、とりわけ犬山の埋もれた文化財とは何か、それらを利活用していく上での課題とは何かを検討することが求められている。ここでは、その事例として、次の二つの文化財を紹介したい。

一つ目は、犬山市内に残る小牧・長久手の戦い(1584年)の城砦跡(楽田城、羽黒砦、青塚砦、内久保砦)である。これらの城砦跡には、現在でも文化財に未指定のものがある。そこで、これらの城砦跡を一体の文化的景観として理解し、またその城砦の自然環境や歴史的背景を踏ま

えたストーリーを作り、市民や学生が楽しめるような一連の保存・活用計画を検討する必要がある。これらの城砦は、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(2022年)、「どうする家康」(2023)の舞台でもあり、犬山市の文化的景観の保護と観光への活用をどのように両立させるかのモデルケースともなる。

二つ目は、潜伏キリシタン関連史跡である。尾張は江戸幕府の禁教令の下で長崎に次いで二番目に多くの殉教者を出した地域であるが、その中心地は犬山だった。そのため、犬山市内には潜伏キリシタン史跡が少なからず残っているが、それらは文化財に未指定のままである。これらの史跡・古文書・引き継がれている祭祀を有形・無形を横断した包括的な文化的景観として、保存・活用する計画を検討するべきである。長崎の「潜伏キリシタン関連遺産」が、「重要文化的景観」のカテゴリーで世界遺産登録されたことは、犬山市にとっても示唆的である。

講師プロフィール

経営学部教授・犬山学研究センター センター長
中村 真咲

犬山市民総合大学 敬道館 名古屋経済大学 オープンカレッジ

今年度は、犬山市との連携事業の一つ「犬山市民総合大学 敬道館 名古屋経済大学オープンカレッジ」を実施することができました。

犬山学にちなんだテーマとしては、7月17日(土)に犬山学研究センターの高橋裕平客員教授による「広見線地質ガイド」、10月2日(土)に経営学部の四辻秀紀特別教授兼犬山学研究センター副センター長による「成瀬家に伝来した藤原定家小倉色紙をめぐる」の2講演を実施し、それぞれ35名ほどの皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

高橋先生の「広見線地質ガイド」では、広見線沿線及び犬山市の地質に関するデータをもとに、近隣の土地の特徴やガイドマップの見方のほか、南極観測隊に参加さ

れた先生ならではのお話や、南極にある「犬山」の紹介を交えた講演となりました。

四辻先生の「成瀬家に伝来した藤原定家小倉色紙をめぐる」では、江戸時代の大家家にとっての「藤原定家小倉色紙」の存在とは、また犬山城主であった成瀬家にとってどのような意味を持っていたのか、などのお話をいただきました。

来年度も犬山学に関する講演を含めて、犬山市民総合大学に参加する予定をしています。詳細は4月1日以降に犬山市役所ホームページまたは、犬山学研究センターホームページ等にてご確認ください。



7月17日 高橋客員教授



10月2日 四辻特別教授

TOPICS

名古屋経済大学犬山学研究センター

2021年度は、新しい試みとしてオンラインセミナーを実施しました。「一つの方法」としての可能性を感じつつも、「やっぱり皆さんに集まってほしいね」との声もありました。

現在、社会情勢を見極めつつ、安心していただけるイベントを開催できるよう、準備・検討をしております。それぞれの詳細な日程などが決まりましたら、ホームページなどでお知らせいたします。

【今後の活動予定】

●犬山市民総合大学 敬道館

「名鉄犬山線開通110年と名鉄の観光開発 過去・現在・未来」の講座を実施します。

※詳細は犬山市の広報誌またはホームページでご確認ください

●犬山学サロン

「犬山・名古屋の戦争遺産」「伝統建築工匠の技」「江戸時代の犬山」「承久の乱と尾張」の講座を予定しています。

2022年度活動予定

●名古屋経済大学図書館 企画展

本学に寄贈された上条勉氏(三菱重工業名古屋航空機製作所小牧工場初代工場長)の航空関係資料の展示を予定しています。

●名鉄広見線「地学マップ」

名鉄広見線100周年に合わせて、沿線の地層などを紹介する「地学マップ」を作成しています。こちらをもとにした地層見学会の開催を企画中です。

●名鉄小牧線「歴てつマップ」

名鉄小牧線90周年に合わせて、沿線の古代・中世の文化遺産を紹介する「歴てつマップ」を作成しています。こちらも市民参加型イベントを企画中です。